

令和3年 第4回定例会 11月30日 一般質問(3/3) 個別施設計画部分  
(文字起し+修正)

一般質問 松本)

令和3年3月に作成された三宅町公共施設個別施設計画について質問します。

これは平成29年3月平成30年10月に策定された三宅町公共施設等総合管理計画に示された総合的な管理に対する基本的な考え方に基づいて個別施設ごとに具体的な取り組みを実践していくための計画であると認識しています。

総合管理計画では「基本方針として公共建築物については必要なサービス水準を確保しつつ、(途中略)、整備や維持管理のコスト削減を図ります。」(P88の中段)

とありその後も「公共のサービスを吟味して維持する」旨が謳われております。

総合管理計画が作成された際には、「必要なサービス水準的には削減の余地はなく財政的にはどこまでは絶対削減する必要があるのかが何も記載されていない。」と指摘させていただきましたが、それはこの先の個別計画の中で明らかにしていく、と言った回答に終始していました。

今回それを受けた個別施設計画が作成されました。

その中には個々の施設ごとに利用状況がどうなっていてどれだけのサービスを維持していくのかとサービスを維持した上でのコスト削減の方策が吟味されているものと期待しておりました。

そういった観点で今回の個別計画を見させていただくと残念さを拭い去ることはできません。

問題と感ずるのは次の2点。

1. ほぼ全ての施設に対して必要なサービス水準の吟味がなされていない。必要性を個々に再吟味して統廃合を検討すべきではないか。
2. コスト削減について長寿命化のために単純更新パターンを長寿命化パターンに変えて概算事業費がどうなるかを一律に計算して比較されているものの、今回除却(用途廃止・除却)を決定された施設について更新、建て替え、長寿命化、単純更新の比較がなされていない。特に除却との方針を打ち出したものに関しては単に築年数と構造で一律に更新費用を見積もるのではなくサービス水準に合わせた更新費用を見積もった上で除却を決定すべきであると考えますがいかがでしょうか。

これは今回、地区の公民館分館だったものや老人憩いの家が軒並み規定の対応年数で用途廃止・除却となっていることについての意見ですが同様に施設総合管理計画の段階で既に対象から外されている各地区の公民館分館だったところについても同様です。

町長の見解を伺います。

また施設管理全体の比率から見ると大きなところとして公営住宅があります。

公営住宅の在り方について先の質問でスーパーシティやスタートアップビレッジの構想がありますが、それと合わせた施策等ありましたらご紹介いただければと思います。

町長)

三宅町公共施設個別施設計画のご質問についてお答えいたします。

個別施設計画では現行の行政サービスの水準を確保する前提のもと予め各所管課へ事前確認調整のうえ本計画を策定しておりますのでサービス水準が低下することはないものと考えております。

またはコスト削減につきましては中長期的な観点から見ればそういう施設に対する維持管理経費の負担が継続的に必要となるため用途廃止・除却による全体コストを抑えられるというのが基

本的な考え方でございますがとりわけ用途廃止を決定した施設におきましては用途廃止除却時点で所要の目的は達成されており存続する類似施設があれば現行サービスを維持確保できるものと考えております。

しかしながらご指摘の通り実際に施設の用途廃止・除却の検討を進めるにあたりましては行政サービスの水準確保は非常に重要な課題として認識しているところでもあり今後行政サービス面での分析評価の実施も視野に入れ検討してまいりたいと考えております。

最後に公営住宅の在り方につきましては公営住宅法に定められる地方公共団体の供給目的のうち、本町の町営住宅に求められる役割についてまた将来の管理コストや規模の適正化について国・県と協議を始めたところでございますが今後現在の居住者に安心して住居を提供することを第一目的とし将来の管理コストや適正化を進めていきたいと考えており、新たに設置目的や将来像につきましては、三宅町町営住宅改良住宅審議会に諮問し御審議を賜りたいと考えております。

再質問 松本)

個別計画なんですけど、サービスの低下は色々相談した上でやってるからサービスの低下はないと、基本的にはないという風に回答頂けたと思っています。

ただ、今回、あちこちの憩いの家などは、償却時期が来たら、これは譲渡するか除却するかどっちにしますか？ということ自治会に相談されている。それは、もうなくなるのが前提で、引き受け、ないなら壊しますけど、壊しますか引き受けますかどっちですか？みたいな話になっています。受ける側からしたらサービスの度合いとして、こんな広すぎる場所は要らないけど最低限これだけのスペースが欲しいんだ、とかそういう話をした上で除却って言う言葉は出していただくべきかなと思いました。この先個別計画からまた上に上がって、総合計画など色々あると思いますので、回答の中にも、これから声をもっと聞いていってとおっしゃってるんで、そこをお願いしたいと思います。

町営住宅に関しても、もしかしたらスーパーシティ構想なんかうまいっちゃって、いろんな予算いろんな構想を考えられる可能性があると言った時に、もともと町がかかえている問題をそれで解決するといった複合的な行政、こそ、トップのリーダーシップだと思います。

先の質問の町営住宅や災害施設など対して、お金がないからやれないではなく、スーパーシティ構想であたり過疎債が続くようになったことを通してそういうものを総合的に実行する。

今度、防災計画を考える際に、また、個別施設計画を考える際にも、スーパーシティもちょっと視野に入れて何か考えたらどう、っていうような指示を出すなど、そういう総合的なことをやるのはトップでしかないと思うんですけど、そういう動きを期待したいと思いますがいかがでしょうか。

町長)

この際、合わせて何かをするというより、なぜするか、何のためにやっていくかっていうことが非常に大事になってくるのかなというふうに考えています。

今後はどの事業においても何の目的で何を解決するためにこの事業をやるのかと事業目的、理念のところ(が大切)。今回、ビジョンミッションバリューが出来ましたのでその部分をしっかりと大切にしながらそれに即した形でまちづくりが行われているのかこの施策は本当に必要なのかというところをしっかりと考えてそこに様々な手法という部分が次につながっていくのかなと思います。

そもそもあのスーパーシティ構想ありきで考えるのではなくてやはり何のためにこの事業は必要なのかという風にしていくのかという謎をしっかりと考えていくということを重点においてその中で手法として連携が必要と言うのであれば連携も視野に入れるそして単独も含めてやらないといけないところにはしっかりと予算を配分していくことをしていきたいというふうに考えております。

松本)

ありがとうございます。

それとは、ちょっと反対から見たような考えになっちゃうかもしれないですけども、個別最適が全体最適にならない例として、例えば今回の個別施設計画に関しては「その施設の維持費がかかるのを削減しなくちゃいけないからここは更新しません」というのが出てきたとします。

また、災害の施設なんかにしても「必要なのは分かるのだけどお金がないから建てられないのです」というのが出てくる。

スーパーシティとか過疎債の活用とかって言った時に、そのお金はあるかもしれないけどなんかちょっと目的が違うから使えない。そういうのは、たぶん部分的に考えた時には全部正しい答えなのだろうと思うんですけども、全部をごっそり合わせた時に果たしてそのもうちょっと良い解がないのかなっていう風な観点で考える。本当に何が必要かっていうのはそこから出てくるのではないのかなっていう風に私は思いますが、ご参考にして頂ければという程度で終わらせていただきます。